

2016 Summer Tokyo

自費研 カンファレンス レポート



山田秀和 先生

近畿大学医学部奈良病院
皮膚科教授
近畿大学アンチエイジングセンター
副センター長

今回のカンファレンスは、特別講演と二つの対談がメインのプログラムとなりました。特別講演では、近畿大学医学部奈良病院皮膚科教授・近畿大学アンチエイジングセンター副センター長を務める、山田秀和先生が「抗加齢医学における『見た目』というテーマで、次のような内容でお話しく

「抗加齢医学における見た目」とは。見た目は第4の資産。

2016年8月28日、東京・西新宿のハイアットトリージェンシー東京「桃山」において、「自費研カンファレンス2016 summer」が開催されました。100名を超える参加者の皆様に熱心に聴講いただいたカンファレンスの内容の一部を、ここに紹介いたします。

見た目は資産となる

英国の社会学者キャサリン・ハキムは、「エロティック・キャピタル」という著書で「見た目は第4の資産」と述べています。抗加齢医学は「見た目という資産を高める医学であるとも言えます。見た目が美しい人は、それほどでもない人々よりも3〜4%多く稼ぐ可能性が高いと言われています。外見が美しい人は、頭が良く説得力があるように映るので、経営者や政治家として活躍する際の武器となります。見た目は資産となるのです。健康長寿を可能な限り実現するのが抗加齢医学ですが、「抗加齢医学によってつくり出された健康長寿は、結果的に美容という領域とアダプト(適合)する」というのが私たちの主張です。

そもそも、見た目は

「生物学的人の美」というのが科学雑誌に発表されたのですが、そこでは、①若々しさ②左右の対称性③平均性④性ホルモンマーカー2D:4D(人差し指と薬指の長さの比率)⑤体臭(免疫システム情報)⑥動き・振り舞い(ロコモティブ)⑦皮膚状態⑧髪質、という8つの基準が記されています。

生物学的年齢(老化の進行度を検査と診断によって決める科学的年齢)が実年齢よりも高い人は、見た目も実年齢より高い傾向にあることもわかってきました。つまり、老けて見ると、それだけ生命予後が短くなるということです。

(詳しい講演内容は、自費研 onlineに掲載しております)

